

はいチーズ

男 盗撮した人。 医者

駅員 盗撮が起きた駅の駅員。

後輩 駅員の後輩

女 盗撮の被害者

妻 男の妻

ここはとある駅の駅員室。  
センターに机、パイプ椅子が四個  
机の上に、据え置き型の電話と携帯が置いてある。  
照明、フェードイン

駅員 ……………

男 ……………

駅員 あのく、いつまで黙ってるつもりですか？

男 ……………

駅員 あなた、自分が何したかわかっています？

男 ……わかってます。

駅員 解ってるって言ったてね、あんたさっきからずーとだんまりで、なんも喋らないじゃないですか。

男 ……………

駅員 盗撮ですよ！盗撮！あなた、盗撮をしたんです！

男 ……はい、すみません。

駅員 謝って済む問題じゃないことくらい解ってるでしょう？

男 ……………

駅員 もうらちが明かない。警察に電話しますね。

男 ……それだけは！

駅員 はあ、何なんですかあなた？ずっと黙っててなにも喋らないし。それで警察に電話しようと思ったらそれはやめてくれって。

男 ……………あの。

駅員 ……なんですか？

男 ……その、私が写真を撮った女性は、どこに…？

駅員 ……奥の部屋ですよ。

男 ……

駅員 あなた、あの子の場所聞いてどうするんですか？もしかしていまさら会って謝りたいとか言うんじゃないでしょうね。…やめてください。あの娘にこれ以上迷惑をかけないでください。

男 ……………

駅員 ああ、もうほんとに警察呼びますからね。

駅員、受話器を取って電話をかけようとする。

チン

男、電話のフックスイッチの部分を押して通話を切る。

男 ……………

駅員 あの、

男 ああ！すみません。

駅員 なに、あんた。今さら警察に電話しないで欲しいとか言うつもり？

男 いやっ、あの…

駅員 あんたねえ。自分がそんなこと言える立場だとも思ってるの？

あなたがしたことは、悪いことなんです。

男 はい、わかってます…

駅員 解ってるならいいですよ？警察に電話しても。

男 ……はい。

駅員、受話器を取って電話を掛けようとする。

チン。

男、電話のフックスイッチを押して通話を切る。

駅員 ……………

男 ……………

駅員 あのさ、あんたさあ…………

男 すみません。

駅員 はあ…かけていいんでしょ!?警察に!あんたさっきそう言いましたよね!?

男 は、はい!

駅員 ならかけますからね!

男 ……

駅員 かけますからね!!

男 は、はい!

駅員、受話器を取って電話を掛けようとする。

男、項垂れる。

男 何でこんなことに、はあ、あゝ

チン。

男、電話のフックスイッチを押して通話を切る。

駅員 なんなんだあんた!!

さつきから!

男 すみませんすみませんすみません!

駅員 電話かけるんだろ!? 電話かけていいんだろ!?

男 はいっ、はいっ。

駅員 はいって、はいって、さつきからあんたずっとはいって言ってる!

なんなんだあんた! あんたそんなこと言える立場じゃない――

男 はいっ、はいっ。(駅員のセリフ中も言い続ける)

駅員 はいって言うな!!!

いったん黙れ!

男 ……

駅員 なんなんだあんた。なんなんだあんた。

男 ……

駅員 いいですか? あなたは盗撮をしたんです! 女子高生のスカートの中に携帯つっ

こんで。この携帯で!

男 ……

駅員 ……ちょっとあなたやってみてください。

男 え?

駅員 あなたが盗撮したときの状況を、再現してくださいって言うてるんです。

男 いや、それは…

駅員 あなたは自分がやったことの重大さが解ってない。一度再現して自分の罪深さを

自覚すべきだ。

男 しかし…

駅員 警察呼びますよ。

男 やりませぬ。

男、立ち上がり移動。

スポット。

男、女の子を見つけ、人をかき分けながら後ろまで行く。

男しばらく女の子の様子を見て、少しだけしゃがみスカートの中に携帯を突っ込む。

男、女子高生に気付かれそうになりながら、写真を撮る。

「3、2、1、はいチーズ! (可愛い女の子の声)」

男、照れくさそうに周囲に会釈する。

スポットオフ

男、まだ会釈をしている。

駅員 何照れてんだ！

男 あっ、すみません…

駅員 しかもなんだ「3、2、1はいチーズ」って！なんでマナーモードにしてないんだ！なんでちよつと古めのシャッター音なんだよ！

男 娘の声です…。小さい時の。(照れながら)

駅員 だから照れるな！

男 これが可愛い娘でして、昔なんかは、パパー、パパーって、大きくなったらパパと結婚するーって聞かなかったんです。

駅員 あんたいったいどんな気持ちで言ってるんだ！

女子高生のスカート盗撮して駅員室に連れ込まれた奴がいったいどんな気持ちで娘を誇ってるんだ！

男 ……ついで。

駅員 つい、じゃねえよ！

なあ、あんたやっぱ反省してないだろ。

男 いえ、そんな。しっかり反省してます。

駅員 反省してたらこんな場所で娘の自慢なんかしねえだろうがよ！

はあ…。もういいです。やっぱり警察に通報します。

男 え？そんなあ！再現したら赦してくれるって言ったじゃないですか！

駅員 言ってるねえよ！

あんたはいったん自分がしたことを自覚すべきだって言ったんだ！

男 そんなあ！それはないですよお！

駅員 なんだよそれはないですよって！いいですか、本来はすぐにでも通報するんです！

男 ちよと待ってくださいよお！

駅員、受話器を取ってボタンを押す。

男、フックスイッチを押して通話を切る。

駅員 ちよつ、切んなよ！

男 やめてくださいって。

駅員、受話器を取ってボタンを押す。

男、フックスイッチを押して通話を切る。

駅員 やめろって！

男 しっかり反省しましたって！

駅員、受話器を取ってボタンを押す。

男、フックスイッチを押して通話を切る

駅員 だから――

駅員、受話器を取ってボタンを押す。

男、フックスイッチを押して通話を切る

駅員 帰れ！！！

男 え？

駅員 もうお前帰れ！

男 いや、あの

駅員 帰っちまえ！

男 それはまずいですよ！

駅員 うっせえよ！ もう帰れって言うてるの！

男 駄目でしょって！！！

駅員 もういいって言うてるだろ！

男 駅員さん！

男、駅員さんにビンタをする。

男 落ち着け！

駅員 ……

男 落ち着いてください！ 駅員さん

あなたの仕事はなんですか！？

駅員 ……え？なんで俺いまビンタされたの？

男 あなたの仕事、それは駅構内及び車内の規律を守り、お客様を安心させて目的地へと送り届けることですよ？

駅員 ……なんで俺盗撮犯に説教されてんの？

男 それをなんだあなたは、盗撮した犯人に帰れと。それでも駅員ですか！

駅員 その本人が言ってるんじゃないよ

男 あなたのような人間が、その場の勢いに任せてこういうことするから世の中の犯罪は減らないんです。

駅員 ……

男 いいですか。犯罪を犯した人間にはもっと厳格に、慚然とした態度で接さなければいけないんです。

駅員 ……

男 いや、そもそも犯罪者を人間と呼ぶこと自体がおこがましいというしかない

駅員 それじゃあ警察呼びますね

男 それだけは勘弁してください

駅員 なんなんだよあんた！

男 警察だけは！

駅員 いやもう無理だ。無理だって。だってあんた人間と呼ぶことはおこがましいとまです言っただもんだもん

男 いや、あれですよ。一般的な話で

駅員 なるほど一般的。警察呼びますね

男 警察だけは！

駅員 なんなんだあんた！

男 そうだ、妻呼びましょ

駅員 は？

男 警察の代わりに妻を呼びます

駅員 いやもういいです。意味わかんないし

駅員、受話器を取ってボタンを押す。

男、フックスイッチを押して通話を切る

駅員 それやめろ！

男 どうにか妻で満足してくれませんか

駅員 無理だって

男 妻で

駅員 だからもう無理だから

男 妻で！

駅員 もう掛けますね

男 妻で！！

駅員 妻を押しすぎ！！

後輩、入ってくる

後輩 どうしたんですかさつきから。うるさいですよ。

駅員 いや——

男 妻でー！

駅員 だから——

男 妻でー…

駅員 この人が——

男 妻でええ！

駅員 うるせえ！！

後輩 この人が警察を呼ぼうとしているのに嫌がんだよ

後輩 へえ、この人なんかしたんですか？

駅員 盗撮だよ盗撮。てか何で知らねえの？ あんなにバタバタしてたのに。

後輩 ああ、僕丁度別のお客さん対応してて気が付かなかったんです。

というか、盗撮ですか。この人が？

駅員 ああ。

後輩 へー、見えなーい

男 ああ、どうも

駅員 こういう真面目そうな人の方が意外とそういうの多いんだよ

後輩 そう言うもんなんですね

駅員 お前もあと何年か勤めたらわかる

後輩 へー

あ、そう言えばさつきのあれ、なんなんですか？

駅員 あれ？

後輩 妻でー！ って言ってたじゃないですか。

駅員 あー、この人が警察はやめてくれー言ってきかなくて。

それで駄目だつて言ったら、今度は代わりに妻に連絡してくれって言いだして

後輩 へえ、意味わかんないですね

駅員 だろ？ もうまいっちゃうよ

後輩 あー、でもそれ、いいかもしれないですよ。

駅員 は？ 何が？

後輩 奥さんに電話することですよ。

駅員 いやでもさ——

後輩 この人が警察に連絡するの邪魔するんでしょ？ それなら逆に奥さんの方説得して、この人を警察に行くように説き伏せてもらえばいいんじゃないですか？

男 後輩君の言う通りだ！

駅員 言う通りじゃねえよ！

まあ、お前が言うことも一理あるな。このままじゃ埒が明かないし、この人の奥

さんを読んで説得してもらおう  
おいあんた。

男 あ、はい

駅員 奥さんの電話番号教えてください

男、駅員に妻の電話番号を教える。

駅員、それをメモると、外に出て行こうとする。

後輩 ここで掛けないんですか

駅員 ここだとその人がうるさいんだよ

後輩 ああ、なるほど

駅員 だから俺がいない間、申し訳ないけどその人見てもらってもいい？

後輩 いいですよ。あ、でも僕まだ外にお客さん待たせてるんでできるだけ早くお願い  
します

駅員 ああ、了解

駅員、外に出ていく。

後輩、置いてある報告書を読んでいる

後輩 ……

男 ……

後輩 ……

男 あのー

後輩 なんですか？

男 いや、なんかすみません。こっちの味方してもらっちゃって

後輩 ああ、別にいいんですよ。そっちの方がいいと思っただけなので

男 はあ…

後輩 それに、お話を聞いてみたいと思ったんです。

男 お話？

後輩 はい。盗撮したって言ってました時けど、どうしてもそう言うことするような人  
には見えなくて。

男 あー

後輩 どうして盗撮なんかしたんですか？

男 それは、ちよつと…

後輩 まあ、そうですね。言いづらいですよね。そういうのって  
男 はい。

後輩 じゃあ、なんか別の話しましよ

男 はい

後輩 ご家族は？

男 妻と、娘が

後輩 へえ、娘さんいるんですか！

男 はい

後輩 娘さん、今回のことを知ったら、どう思うんでしょうかねー

男 ……

後輩 娘さん、おいくつですか？

男 ……17歳です

後輩 はあー、17歳ですか。

後輩 今回の被害者と大体同じぐらいですね

男 恥ずかしくないんですかー？

男 ……

後輩 もう、なんですかさつきからテンション低いなあ

後輩 黙りこくっちゃって

男 あー、まさか自分が何したか分からなくなっちゃってるんじゃないです——

後輩 あんたさつきから酷いな！

男 え？

後輩 え？ じゃない！

後輩 あんたさつきからキツいことしか言わないな！

男 えー、そんなことないですよ

後輩 そんなことある！

後輩 さつきからあんた、家族が知ったらどう思うかやら、娘と同年代の子を盗撮して  
恥ずかしくないのかやら、自分がしたこと解ってるのかやら、さつきの人と  
言ってること変わってないじゃないですか！

後輩 はあ、でも悪いのはあなたなんじゃ——

男 そこは本当にすみませんでした！

後輩 じゃあ、もつと別の話しましょう

男 そうしていただけると助かります

後輩 ええつとじゃあ、お仕事は何を？

男 そこに、書いてありますよ…

後輩 あ、そっか——医者！？ 医者なんですか！？

男 ええ、小児科です

後輩 はー小児科。なんか、やばいつすね

男 ……

後輩 はー、いやそれにしても、医者をやってるような人が、何でこんなことを

男 ははは…

後輩 どうやってやったんですか？

男 え？

後輩 盗撮ですよ。いったいどうやってやったんですか？

男 なんてそんなこと知りたんですか…

後輩 だって気になるじゃないですか。医者やるような、その中でも小児科やってる人がどうやって盗撮をしたのか

男 いやですよ

後輩 えー、お願いしますよ

男 いやですって

後輩 (手を合わせている)

男 しつこいですよ

後輩 ええと、あれだ、あれ。先輩を説得してあげますから！ 奥さんと呼ぶだけで、あとは示談になるようにしようって

男 ……やります

後輩 ほんとですか。やったあ！

男 なんて一日に二回もこんなこと…

後輩 え？

男 いや、なんでも

男、立ち上がり移動。

スポット。

男、女の子を見つけ、人をかき分けながら後ろまで行く。

男しばらく女の子の様子を見て、少しだけしゃがみスカートの中に携帯を突っ込む。

男、女子高生に気付かれそうになりながら、写真を撮る。

「3、2、1、はいチーズ！（可愛い女の子の声）」

男、照れくさそうに周囲に会釈する。

スポットオフ

男、まだ会釈をしている。

後輩 何照れてるんですか！

男 あ、すみません…

男、椅子に座る

後輩、面白そうな顔

後輩 しかし、独特なシャッター音ですね

男 ああ、娘の声でして。へへっ

後輩 娘さん。どういう人なんですか？

男 おお、聞きますかっ！

これが親の眼を抜きにしてもとってもかわいい子でしてね  
は。パー、パーって聞かなかったんですよ

後輩 へえ、最近はどうな感じなんですか？

男 最近は…ははっ

後輩 ああ、なるほど。その年頃の子は気難しいですもんね

男 ええ、あはは。

後輩 娘さんって——

男 ……

後輩 ……

後輩、男のただならぬ様子を察して黙り込む

後輩 あの——

駅員 電話してきたぞ！

後輩 先輩！

駅員 おいお前！ちゃんと大人しくしてたんだろっ！

男 ……はい

駅員 なんだよその覇気のない返事は！

あんたの妻今すぐ来るってよ。

どうせだったら娘もつれて家族一同でくれればいいのによ！

後輩 先輩！

駅員 なんだよ

後輩 娘さんの話はやめときましよう？

駅員 は？なんで

後輩 ちよつと娘さんとのことで複雑みたいなんですよ

駅員 複雑？なんだよそれ。どうせ反抗期とかそう言うのだから。いちいち気にすんなよ

そんなこと

後輩 いや多分、そう言うことじゃ——

駅員 おい、あんた！ こっちとしてはあんたと娘さんのことなんて知らねえからな！

気遣ってもらえるとか思うなよ！

あー、娘さん連れてきたらあんたの今の情けない姿見せられたのに！

後輩 先輩

駅員 いいから

あ、そうだ。動画撮ろう。謝ってるどころ。そんで娘さんに見てもらおう。

ほら、こっちむけよ（男から携帯を取り上げる）

後輩 先輩

駅員 あ、後日被害者の女の子と会わせてみるってのもよか——

後輩 先輩

駅員 な、なんだよ別に——

後輩 先輩は言い過ぎです！

確かにこの人は盗撮をしました。ですが先輩が言ったようなことをされるほどのことはしていません！！

駅員、後輩の剣幕に気圧される

駅員 は、はい。

後輩 それなのになんですか先輩は、いや、なんだお前は！

駅員 いや、ため口……

後輩 あ！？

駅員 いえ、何でも。

後輩 この短時間でも十分分かりました、この人はそんなに悪い人ではありませんただ気が弱いだけの人です！ 先輩だって薄々感じてたでしょう！？

駅員 ……はい。

後輩 そんな人に先輩今何しようとしてました？

さんはい！

いやさんはいつて——

後輩 答えろよ！！

駅員 はい、はい！

後輩 さんはい！

…動画撮ろうとしてました

そうだよな！ お前動画撮ろうとしてたよな！

動画撮ろうとしてたよな！ この携帯で！（駅員から携帯を取り上げる）

駅員 はい

後輩 お前どう思う？

駅員 え？

後輩 自分の娘にそんな姿見られたらどう思うかって聞いてんだよ！（駅員の胸ぐらを掴む）

駅員 ……

後輩 答えろよ！！

駅員、あまりの気迫に泣き出す。

後輩 はあ、自分は泣いて済まそうってか…

…もういい、おまえ謝れ

駅員 え？

後輩 今からこの携帯で撮るから、あの人に謝れ。

男 あの、何もそこまで——

後輩 黙ってる！

男 ええ…、それは分かんない

後輩 ほら、早く

駅員 あの、俺先輩なんだけど…

後輩 後で謝りませす！！

ほら早く！

駅員 （啜り泣きながら）あの、この度は——

後輩 声が小さい！！殺すぞ！

駅員 この度は！私が彼に、あまりにも行き過ぎた取り調べを行ってしまい、誠に申し訳ありませんでした。

後輩 反省したか？

駅員 はい…

後輩 土下座

駅員 ……はい

後輩 ちょっと携帯貸してください

後輩、駅員の土下座をカメラで撮る

「3、2、1、はいチーズ！（可愛い女の子の声）」

後輩 顔上げる

後輩、顔を上げた駅員をカメラで撮る

男、ドン引き

後輩 もういいぞ

駅員 はい……

後輩 ……いやはやすいません！

男 いや無理ですよ！！

後輩 どうしたんですか、お話ししましょうよ。

男 無理ですって！今の見た後に気軽に話なんて

ちよつと大丈夫ですか！？あなた！

駅員 もう、ほつといてください

男 ほつとけませんって……

駅員室の外から、後輩を呼ぶ声がある

後輩 あー、そうだ。外にお客さん待たせてるんだった。

先輩、後よろしくお願いします

駅員 ……

後輩 先輩？

駅員 ……

後輩 先輩

駅員 はい

後輩 お願いしますね

駅員 はい……

後輩、駅員室から出ていく

駅員 ……

男 あの——

後輩、戻ってくる

後輩 これ、返し忘れてました（携帯を男に渡す）

男 あ。ありがとうございます。

後輩 それじゃ

後輩、再び駅員室から出ていく

男 ……見ます？（駅員の前に携帯を置く）

駅員 見ませんよ！

男 しかしすごい剣幕でしたね。後輩さん。

駅員 ああ、あいついつもああなんですよ

男 はあ……

駅員 ピーキーな性格というかなんというか

男 大変、なんですね

駅員 あんたのところもそうでしょ？

男 え？

駅員 娘さん。高校生なんでしょ？ちょうどあんな感じで、気難しい年ごろなんじゃないですか？

男 ああ、はい……

駅員、男の様子を見て気まづくなり携帯に目を落とす  
携帯の中身に違和感を感じる。

駅員 ……あれ？

男 ……どうしたんですか？

駅員 いや、これ。

男 ……これが？

駅員 いやこれ、あんたが撮ってた写真ですよ

男 ああ、それがどうか？（まだ写真を見ていない）

駅員 いやどうかなにも、この写真真っ暗じゃないですか

男 ああ、本当だ。

駅員 満員電車だったから光が入らなかったのかな

男 ……多分そうだと思います

駅員 よかったじゃないですか

男 え？何がです？

駅員 この画像を見せて写真はとれていなかったって言えば、向こうも示談にしてくれるかもしれないですよ

男 あの――

駅員 さっきあいつにも言われたけど、俺もいろいろと言いきちやいましたし、俺が頑張って説得しま――

男 あの！

駅員 なんですか？ああ、大丈夫ですって。きっと向こうも許してくれますよ

男 いや、そう言うことじゃなくてさっきも言いましたよね？ 自分で言うのもなんですけど僕は犯罪者ですって。

駅員 ほんとになんだな

男 そんな僕を、何のおとがめもなしに返すって言うのはいかなものかと……

駅員 それなら警察に——

男 妻で！

駅員 だから何で妻なんだよ！

男 女の子に直接謝らせてくれませんか？ さっきのことのお詫びとしても、それで十分です

駅員 いや、さすがにそれは駄目ですよ。被害者の子もきつと怖いですし

……それにさっきはあんたが逆上したら駄目だと思って言いませんでしたけど、警察に電話して欲しいって言うのは被害者の女の子の要望なんです。

男 そんな、なぜ……

駅員 いや、それは分かれよ

ともかく、そんだけ怒ってる人に直接会ったところで、余計火に油を注ぐだけですよ。

男 それも、そうですね。

駅員 それじゃあ、俺、ちょっと行ってきます

男 あの

駅員 なんですか？

男 これ……

男、鞆から聴診器を出す

駅員 なんですかそれ……。ああ、聴診器。聴診器がどうかしたんですか？

男 ……

駅員 どうしたんですか？

男 これを

駅員 はい

男 女の子の胸にあてさせてもらいたいん

駅員、無言で受話器を手取る

男 ちょっと何してるんですか！？

駅員 だめだ、やっぱりだめだ。あんたやっぱり変態だ。警察呼ぶ

男 なんでするか！

駅員 聞かなくても分かれ！

男 やめてくださいよ！！

女、入ってくる。

女 いつまで待たせる気だ！

暗転

ここは、手術室。

男、駅員、女がいる。駅員と女は助手

男、何やら手術をしている。

手術台の大きさに、二人同時に手術をしているようだ

男、一方から何かを取り出す。

男 さよなら。元気で。

男、何かをもう一方に入れ込む

手術が終わったようだ。

男、崩れ落ちてすすり泣く。

男 何か、言ってくれ！

女、男の肩を抱く

女、何か言おうとする

「3、2、1、はいチーズ！（可愛い女の子の声）」

明転

ここは駅員室。

男、女、駅員

女が男の胸座を掴んでいる

女 おいあんた！なんか言えや！

男 は、はい。

女 はいじゃねえんだよ！人様に痴漢しといて！

男 す、すみません！

女 あ！？お前誰に向かって謝ってんだおら！

男 はい！

駅員 無茶苦茶だ…

ほらほら、二人とも落ち着いて

男 …

女 ああ！？なんだあんた！なんか文句でもあんのか

駅員 いや、俺に着れるのは違うだろ

とにかく落ち着いて。

君さっき誰に向かって謝ってんだっててたからね。それ言われたら何も言えなくなっちゃうから。

女 ああ、私ったら。すみません。気が動転しちゃってたみたいで

駅員 うん、いくら何でも動転し過ぎじゃない？

ちよっと、大丈夫ですか。

男 ああ、はい。ちよっと苦しかっただけなんで

男、息を整える

駅員 それで、なんでこっちの部屋に着ちゃったんですか？奥の部屋にいてくださいって言いましたよね？

女 本当はちゃんと待っておこうと思ったんです。でも、あまりにも長いこと待たされたので

駅員 あー、それはごめんね。ちよっといろいろとゴタゴタしてて

女 それで、結局どうなったんですか？

駅員 あー、それがね……

男、土下座する

男 申し訳ございませんでした！

女 え？

駅員 こういうことです

女 どういうことですか？

駅員 謝るから、どうか示談にしてくれないかって。

女 は？

駅員 はは

女 いや、何考えてるんですか。盗撮しといて土下座ですむわけ無いでしょ

駅員 いやでもこの人そんなに悪い人じゃないんだよ？

女 立派な犯罪者ですよ？

駅員 うわ、正論だ

女 盗撮って言う立派な犯罪を犯したんですから、ここは警察——

駅員 いや、その盗撮自体もうまく行ってないんだよ

女 どういうことですか？

駅員 これ見て

駅員、男の携帯電話をの中の画像を開いて渡す。

女 ただの真っ暗な写真じゃないですか

駅員 これ、盗撮の写真

女 え？

駅員 このおっさん、結局盗撮できてなかったんだよ

女 は？

駅員 盗撮がバレたときも含め、なんか間抜けなんだよこの人は。

女 あー、はい

駅員 どこか、憎めない気するだろ？

女 ……はい

駅員 (安心した顔)

女 まあ許しませんけど

駅員 え？

女 いや、精神的にダメージ出てますからね？こっちは

駅員 えー、今一瞬納得しかけてなかった？

女 それとこれとはまた別です

駅員 いやでもさ

女 なんなんですかさつきからこの人の味方して

駅員 いや、ちよつといろいろと負い目があつて

女 なんですか負い目って：：もしかして、お金とかもらつてるんじゃない——

駅員 ちよつとまでそれはない！

女 はー、どうだか

駅員 おい、最初と性格違うじゃねえか

女 尊敬できない人にはこんな感じなんです

駅員 なめ腐りやがつて

女 それより早く警察に電話してくださいよ

駅員 だからそれは今、この人の奥さん呼んでるところなんだつて

女 は？なにそれ

駅員 知らねえよ。ただこの人がそう言ったんだ

女 なんて警察の代わりに奥さん呼んでどうにかなると思つてんのよ

駅員 だから知らねえよ。

女 だから何で知らないのよ。今までの時間はなんだつたの？

駅員 いや、それは：：

女 ほら、何にも言えないじゃな——

いつまで土下座してんのよ！

今あんたについて割と重要な話してたんだけど！

男 ああ、すいません

男、立ち上がる。首には聴診器が掛けてある

女 何で聴診器つけてんのよ！

駅員 ああ、この人、医者

女 今つけてる理由にならないでしょ！

男 あーこれは——

駅員 言わなくていいです。色々とややこしくなるんで

男 あなたの胸にあてたいなと思ひまして

女、携帯を取り出して電話を掛けようとする

駅員、女を羽交い絞めにして止める

駅員 いや、気持ちちは分かるけど！

女 放してください！やばいです！これはやばいです！

駅員 わかる！分かるけど！いったん落ち着いて！

男 いや、これは別に変な意味じゃなく、ただあなたの鼓動が聞きたくて  
女 もっとやばいじゃないですか！！

駅員 それな！！

女、もがく。もがいているうちに胸を抑えて急に苦しそうにする

駅員 え？

ちよ、おい！ 大丈夫か！？

男 まずい！

男、女の肩に手を置き落ち着かせる。

男、鞆の中から薬を取り出す

駅員 …大丈夫なんですか？

男 これ、飲んでください

女 なんて盗撮してきた人の薬なんか…

男 いいから

女、薬を飲んでしばらくして落ち着いた様子になる

男 よかった

駅員 あんた、ほんとに医者だったんですね

男 小児科ですけどね。疑ってたんですか

駅員 あ、あんた小児科だったんですか

男 ええ

駅員 なんか、やばいですね

…しかし、普段から薬なんて持ち歩いているもんなんですね

男 …はは

駅員 大丈夫？

女 はい、ちよっと昔、心臓の病気にかかって

男 ちよっとこっち見て

男、女の目の前にしゃがみ込み様子を見る

後輩 あ、ちよっと待ってください！？

妻、鬼の形相で入ってくる

妻 あんた何してんの！

男 お前！

妻 すいません！ほんとにすいません！

駅員 だれ、この人

後輩 多分奥さんです

妻 何やってんのあんた！！

こんな、痴漢なんてしてどうすんの！！

駅員 まあまあ奥さん落ち着いて

妻 すいません。ほんとに、すいません

ほら、あんたも頭下げなさい！

駅員 いやそんな

妻、男の前にしゃがんだ女がいることに気付く

妻 あんた！何してんの！！

男 いや、これは――

妻 盗撮して捕まって、今度はこんな……――馬鹿じゃないの！！

駅員 あ、奥さんそれは――

妻 すいません、ほんとにすいません

駅員 ああ、いやそんな

男 だからこれに関しては――

妻 あんたはだまってなさい（なんて言ってるのか分からない）！！

あんたも謝りなさい！！

妻、男の頭を掴んで謝らせる。かなり激しく。

妻 すいません。夫がすいません。

女、息を整えて立ち上げる

妻 あなたもごめんなさい！

大丈夫？怖いことされなかった？

女 大丈夫です。

それに、今のはこの人のせいってわけじゃないんで

妻 え？

女 私が体調悪くしてたのを、この人が見てくれてたんです

後輩 え？ そうなの？ 大丈夫？

女 誰ですかあなた？

後輩 ああ、この人（先輩）後輩で、ここの職人です。どうぞよろしく

妻 ああ、私早とちりしちゃってみたいで。皆さんすみません。

駅員 まあ、あんな状況だったら勘違いしますよ

妻 いや、ほんとにすみません。色々とお騒がせして。

私ったらほんと昔から早合点で

駅員 いやいやそんな

妻 それじゃ私たちはこれで。

妻、男の手を引いて出ていこうとする

男、くらくらしながらついていく。

駅員 いやいやちょっと

妻 え、なんですか

駅員 いや、まだ盗撮のことが解決してないんで

妻 でも今勘違いって

駅員 それは今さっきの状況のことであって、盗撮は本当なんです

妻 ああ！ そういうことだったんですね

すみません、私また早とちりで。

駅員 いえいえ、じゃあお話を――

妻ほんとにすみません！

妻、男の頭を掴んで一緒に謝らせる。かなり激しく。

妻 ほらあんたも謝りなさい！ さつき帰ろうとしたときなんて言わなかった！の？

そのままやり過ぎそうと思ってたんじゃありませんか！

駅員 話聞いてください！

女 あれのせいでも言えなかったんだと思いますけど

後輩 たぶんそうだよ

駅員 とりあえず一旦落ち着いて話しましょう

駅員、男に座るように促す

男、フラフラしながら座る

駅員 大丈夫ですか？

男 はい、何とか

妻 あの、主人は本当にそんなことをしてかしたんでしょうか？

妻 いまだにその、信じられなくて…

女 頭掴んで謝らせてましたよね

後輩 全く信用してなかったよね

駅員 電話でも説明しましたけど事実です

妻 そんな…

駅員 警察に何か電話するかどうかはまだ話し合い中ですが、被害者の彼女が通報する

妻 と言ってるので…

妻 それは、しょうがないですね…

駅員 …ご主人が言うことには、警察の代わりに奥さんを選んでくれと

妻 …なぜ？

駅員 それに関してはこっちも分かりません

男 …

後輩 あれじゃないですか。奥さんが警察より怖いからそれで勘弁してくれってことじゃないですか

駅員 …お前なに言ってるんだよ

後輩 えー、だってそれしか考えられないじゃないですか

駅員 そうだったとしても本人達の前で言うなよ！

後輩 あっ、すいません

駅員 すいませんじゃねえよ

妻 なんか、すいません

妻 なにがですか？

駅員 いや、何がですかって…

妻 なんにもありませんでしたよね

駅員 あ、もうなかったことにするつもりなんですね

妻 なんですかさつきから。おかしいですよ。

駅員 …はい

妻 通報しましょう

駅員 え？

妻 だから通報しましょう。この人。

駅員 いや、えっと。あの、いいんですか？

妻 犯罪者なんですから、警察に突き出さないと

駅員 …

おい、ちょっと

後輩 なんですか

駅員 奥さん、どうしちゃったんだ？

後輩 怒ってるんじゃないですか？

駅員 いくら怒っても自分の夫を警察に突き出しはしないだろ

後輩 でも見てくださいよあの顔

妻、  
凄い顔

駅員 怒ってるな

後輩 でしょ？

駅員 このまま警察呼んでもいいと思うか？

後輩 別にいいでしょ、奥さんがいいって言ってるんですから

駅員 でも絶対勢いで言ってるぞあの人

後輩 いいですって気にしなくて。ビビリなんだから

駅員 いや、でもさ

後輩 大丈夫ですって。根性なし

駅員 だけど

後輩 はやくしまししょうチキン野郎

駅員 さっきからお前すごい言うな

後輩 後で謝ります

駅員 もう二個たまってるんだけど

後輩 とりあえず、電話しましよ

駅員 お、おう

あの、それじゃあ、警察に電話しますね

駅員、警察に電話をかけようとする

妻、男の聴診器に気付く

妻 あの、夫は何故聴診器を？

駅員 ああ、その聴診器をこの娘の胸にあてたいとか言っていました

ははっ通報して当然ですよ

妻 どういうこと？

男 そう言うことだよ

妻 なんて言わないのよ！？

男 本人を前にして言えるわけないだろ！

妻 やるにしてももつと他にやり方があるでしょ！

男 本人にばれない様にするやり方がこれしか思いつかなかったんだよ！

妻 にしてもよ！ ていうかどうやってその状況までもっていくつもりだったのよ！

男 だからお前呼んでどうにかしようと思って買ったんだろ！

妻 このままだったら捕まって終わるわよ！

男 お前が突き出したんだろ！！

妻 そりやそうするわよ夫が盗撮なんかしたら！

あーもう

妻、フックスイッチを押して通話を切る

駅員 あの…

妻 ああ…、すみせんうっかりしちゃって

駅員 …はあ

駅員、受話器を取ってボタンを押す。

男、フックスイッチを押して通話を切る

駅員 あなたもですか

妻 す、すみせん…

駅員 電話していいんですよね。通報してもいいんですよね？

妻 そりやあもちろん！ 犯罪者なんですから

駅員、妻を睨みながら受話器を取ってボタンを押す。

妻 すいません。それ見せてもらっていいですか？

後輩 ああ、ご家族ですし、別にいいですよ

妻、報告書を受け取り読む。

妻 ああ、こんな。こんなことを夫が？

後輩 …はい。残念ながら。

妻、泣き出す。

妻 見てくださいこんな……！

妻、報告書でフックススイッチを押して通話を切る

駅員 嫌なら嫌って言え！！

妻 ……嫌です！！

駅員 ……あんた凄いな！

妻 ははっ

駅員 誉めてねえよ！

はあ、一体何がしたいんですか……

女 ……あの、一ついいですか？

駅員 あ、なんかごめんね。置いてけぼりにしちゃって

女 いえ、それに関しては別にいいんです

あの……、もう通報しなくていいです

駅員 え？

女 確かに、私この人に盗撮されましたけど、その盗撮自体うまく行ってないみたい

ですし。何より、さっきはこの人に助けていただきましたし

でも、いいの？

女 いいんです

男 あのー……

女 はい？

駅員 よかったですね！ あんたなんとか前科者にならずに済みましたよ！

男 胸にあてさせてもらってもいいですか

駅員 あんた馬鹿か！

なにしてんだ、せっかくいい感じに収まりが付きそうだったのに！

男 いや、あの、いいかなーって……

駅員 いいわけないだろ！

男 そんな……

女 あ、無理だ。やっぱり通報しましょう

後輩 了解です

男 いや、ちよつと待ってくださいよ！

駅員 自業自得だろ

男 これには事情があつて！

駅員 どんな事情だよ！

男 それは……

妻 もう全部言っちゃいなさい！

妻、フックスイッチを押して通話を切る

駅員 うわっ、なんなんですか…

妻 あなた、もう説明してしまいなさい

男 しかし…

妻 あんたほんとに捕まっちゃうわよ！

女 説明って、何をですか？

妻 夫が盗撮をするに至った経緯です

後輩 ただ劣情浮かされただけじゃないんですか？

男 断じてそんなことはありません！

娘と同学年の子に！ 娘が同学年になるはずだった子に！

女 …同学年になるはずだった？

男 どういうことですか？

男 私たちには娘がいるって、言いましたよね？

フェード、暗転

回想シーン

男 　　ただいまー  
妻 　　おかえりなさい。  
男 　　いやー今日も疲れたよ。  
妻 　　あなた、静かにして！  
男 　　あの子もう寝てるんだから！  
妻 　　ああ、そうだった。ごめん

妻、お盆に乗せたご飯を持ってくる。

男 　　ああ、ありがとうございます。  
妻 　　あなたちゃんと、覚えてる？  
男 　　覚えてるって、何が？  
妻 　　いやねえ、遊園地よ。あの子楽しみにしてるんだから  
男 　　ああ、ちゃんと覚えてるよ。  
妻 　　もう、すっかりしてよ。何回も延期になって、次こそはってことでやっと納得してもらったんだから  
男 　　解ってるって。  
妻 　　今の今まで忘れてたくせに  
男 　　覚えてたよ  
妻 　　どうだか  
男 　　…今日どんな感じだった  
妻 　　遊園地楽しみーってずーっと言ってたわよ  
男 　　遊園地のプールが一番らしくてね、水着引つ張り出して勝手に着て遊んでたわよ  
妻 　　ははっ、冷房で風邪ひかない様に言っとかないと。  
男 　　…あなた、最近あの子と話した？  
妻 　　…いや、仕事が忙しくて話せてない  
男 　　お医者さんが忙しいのは知ってるけど、あんまりほっぽり出してると、あんなあの子に忘れられるわよ。遊園地の約束だって、私がしたんだからね  
妻 　　解ってるって。遊園地でたくさん思い出せるよ。  
男 　　頼むわよ。言われるわよ、「仕事と私、どっちが大事なの。ばば」って  
妻 　　そんなませた子じゃないよ。まだ6歳だぞ  
男 　　すぐじゃないわよ。あと十年もしたらきつとそうなるって言ってるんだ  
妻 　　そうになったら、言ってるさ。「父さんは未来ある命を救う仕事をしてるんだ」って

妻 答えてないじゃない

男 答えが出るんじゃないだろ

妻 もう、口だけはうまいんだから

…あ、そうだ。携帯貸して

男 なんだよ。浮気ならする暇ないぞ。

男、携帯を渡す

妻 そんなんじゃないわよ

妻、男の携帯をいじってから男に返す

妻 よしっ。はいどうぞ

男 なんだよ…っつて、待ち受けのこの写真

妻 そう、あの子の写真

男 ふふっ、ありがとう

妻 それだけじゃないわよ。写真撮ってみて

妻、ポーズをとる

男、写真を壁に向けて取る

「3、2、1、はいチーズ！（可愛い女の子の声）」

妻 私を取りなさいよ！

男 これ…

妻 そう、あの子の声

テレビでやってるのを見て、あの子もやってみたって

仕事でさみしくなったら聞いてあげて

仕事中に、カメラは使えないんだけどなあ。電源も切ってるし

あ…、そうだった

はははっ、まあいいさ。休憩時間に外で撮れば何も言われないだろう

…約束、守ってよ？

ああ

男 十年前、私たちには六歳になる娘がいました

これが可愛い娘でして、昔なんかは、パパー、パパーって、大きくなったらパパと結婚するーって聞かなかったんです。

まあ、医者としての仕事が忙しくなると、全然あえない時期も多かったんですけどね

医者って言うのはどうしても忙しくて、中々一緒に出掛けるとかもできなくて…

男 ほんとにごめん!!

妻 静かにして! あの子も寝てるんだから…

男 いや、しょうがないんだよ。難しい症例の子に当たっちゃって、その会議がこんど  
の休みの日にかぶっちゃたんだもん

妻 ほんとと最低。あの子になんていえばいいのよ。

男 パパの仕事が忙しいからって――

妻 何回同じこと言ったと思ってんのよ

男 だってしょうがないだろ! 人の命がかかっているんだから

妻 それは解ってるわよ。あの子の気持ちも考えてって言うてるの!

男 …分かった。明日早めに帰ってきて謝るよ。

妻 …しっかり謝ってよ。六歳って言ってもしっかりしてるんだから

男 ……うん

男 こんなことも日常茶飯事でした。

ただ、この日は最後だって言うお願いを反故にってしまったもんで、いつも以上に  
しっかり謝らなきゃなーって思ってた

漸く、会議が終わったと思ったら

男 ―――― 執刀は、私が。

あとは、心臓移植を引き受けてくれるドナーを探すだけですわ。

それでは、ありがとうございました

……ふう

男、一息つき携帯の電源を入れる。

待ち受け画面を見て少し微笑む

男 あれ? 着信30件?

男、電話を掛ける

妻 あんた何してんの! 電話にも出ないで…!

男 だから会議だって!

妻 会議なんてどうでもいいから!

男 はやくこっちに着て！

男 どうしたんだ落ち着け！

妻 あの子が、あの子が！

男 あ、あの子がどうしたんだ！？

妻 おい！おい！

男

おい！ って叫ぶんですけど何も帰ってこないんです

原因は、溺れたことで脳に酸素が行かなくなったための低酸素性脳症

プールが楽しみでならないかった娘は、我慢できずこっそり一人で近くの海に行  
つてみたいんです。

医者だから、小児外科医だからわかるんです。

…脳死でした。心臓は動いてるんですけど、脳がもうだめだってことです。

もうこうなったらどうしようもないんです、今の技術じゃやりようがないんです。

医者だから、わかっちゃうんです。

でも、妻は…

妻

この子は大丈夫よ！

男 だから何度も説明しただろ！

妻 心臓が動いてるのよ！？ まだ、この子は生きてるの！

男 心臓は外付けの機械で動かしているだけだ！

妻 それでも動いてるの！

男 動いてるからいいってわけじゃないだろ！

妻 …あなたに何がわかるのよ！ ずっと仕事で家開けて！ 子供の面倒も全く見な

いで！ あなた！ この数か月間、まともに話したことあった！？ あの子の声、し

っかり思いだせるの！？

…

妻

あなたも聞いてみてよ。この子の心臓の音を。それでもまだこの子が死んでるっ

て言える？

男、娘の胸に耳を当てる

心臓の音が、弱く聞こえる

男、ゆつくりと泣く

男

聞こえる…

妻

ね？ 分かったでしょ。この音が――

男

でも、駄目だ

妻 え？

男 この音もしばらくしたら消えてしまう

妻 ……どういふこと？

男 脳の機能が完全に止まっているんだ

妻 心臓も段々と動かなくなる。

妻 そんな…、どうにかならないの！？

妻 このままだとこの子本当に死ん——

男 だからもう死んでる——！！

妻 そんなことない！

男 今の技術じゃ無理かもしれないけど、何年か先に——

妻 それまでこの子の体がもたない

男 それなら、脳の移植は

妻 それこそ今の技術じゃ無理だ

男 それなら——

妻 いいかげんにしろ！！もう無理なんだよ！！これ以上のこの状態で心臓を動か

男 し続けるのは！

妻 じゃあ、どうしたらいいのよ！

男 認めるんだ！この子がもう死んでしまっていることを

妻 そんな…

男 この子の命が大事なら、死んだことも認めるんだ。

妻 生きているふりなんて、一番の冒険だ

妻、泣き出す

男 ……心臓だけなら動かし続けることができるかもしれない

妻 え？

男 ……僕の患者に重い心臓の病気を抱えた子がいる。心臓の移植をしなければ後1年  
もたないだろう

妻 その子に、心臓を移植するんだ。

妻 ……

男 そうすれば心臓だけは、動き続けることができる

妻 ……

男 ……どうする？

妻 ……ちよつと考えさせて

妻、部屋から出ていく

男 ……

男、どこか適当な方向に向けて携帯で写真を撮る

「3、2、1、はいチーズ！」

男 その後妻は、心臓移植の件を受け入れてくれました。

何か言おうと思いましたが、目を真っ赤にしてこちらを見据えてくる妻の顔を見ると、何も言えませんでした

そうやって迎えた手術当日。

ここは、手術室。

男、手術をしている。

男、娘から心臓を取り出す。

男 さよなら。元気で。

男、心臓をもう一方に入れ込む

手術が終わったようだ。

男、崩れ落ちてすすり泣く。

男 何か、言ってくれ！

男 執刀する私は、何を考えていたのでしょうか。今となってはよく覚えていません

ただ、娘の顔と、今から患者の女の子の顔、「さよなら。元気で」、この言葉だけでした。これだけは何が合っても忘れることは無いと思います

移植は無事成功し、拒否反応も見られませんでした。

娘の心臓は、これからも動き続けることになったのです。

暗転

明転

駅員 その患者の女の子って……

女 私？

男 そうです……

駅員 じゃあ、その聴診器も

男 娘の心臓の音を、もう一度聞きたくて

後輩 だからあんなに奥さん呼びたがっていたんですね

男 しかしなんでこのタイミングで……。もっと前に会いに来ることもできたでしょ

男 ドナーの家族が移植先の患者に会いに行くのは法律で禁止されています

男 私が執刀したのもかなりのグレイゾーンなんです。実際その後は、私は担当医から外されて会いに行くのを止められていました

駅員 だからこの前、偶然この電車に乗っているのを見つけたとき、とても驚きました  
それなら、普通に声をかければよかったのに

男 見知らぬ男に聴診器を胸にあてさせてくれなんて言われて頷くわけ無いでしょ！

男 医者だと信用してもらうためには病院に連絡をとってもらわないといけませんし

駅員 だからって盗撮することは無いだろ

男 そこは……。気が動転してました。あの時はこれしかないと思ったんです

後輩 動転し過ぎでしょ……

男 一応、間違っても撮れてしまわない様に気はつけました

女 どこに気を使ってるんですか

女、あきれ顔で溜息をつく。

女 ……分かりました。

男 え？

女 心臓の音、聞いていいですよ

妻 いいんですか!?

女 今の話を聞いて断れるわけじゃないですよ

女 私の命の恩人でもあるんですよ？

男 いいですよ。服着たままでも大丈夫ですか？

男 大丈夫です

妻 ほんとに、ありがとうございます

妻 ありがとうございます

女 いえいえ。後でもう一回娘さんの声、聴かせてくださいいね？

男 はい！

男、女の子の胸に聴診器を当てる

心臓の音が聞こえる。

段々と大きくなっていく

それに並行するように、男のなかの娘の記憶が蘇る

フェードで男と女、妻にスポットが当たる

男、静かに泣き、声を絞り出す

男 久しぶり。元気だった？

美春

娘の声が返ってくる。

「うん！」

明転

男聴診器を外す

男 ……ありがとうございました

女 美春ちゃんって言うんですね

もう大丈夫ですか

男 はい、もう十分。聞きました。

女 よかった。

また、いつでも聞きに来てくださいよ。誰にも言わないようにしますから。

駅員 あ、勿論俺たちも言わないですよ！ な？

後輩 はい！

妻 みなさん…

男 ありがとうございます！

女 ……あ、そうだ！ 写真撮りませんか？

その携帯で。

駅員 お！ いいですね！

男 しかし、写真を撮ってしまうと誰かに見られたときにあったことがバレて――

駅員 大丈夫ですって！ あんた基本的に携帯の電源切ってるんですよ？ 見られること

は無いですよ！

男 しかし…

女 それにさっき言ったじゃないですか。もう一度美春ちゃんの声を聞かせてくれ

るって

男 あれはそういう意味では――

妻 ほら、あんまりうじうじ言わないの！撮るわよ！

後輩 じゃあ僕がシャッター押しますね

男 あ、ちよつと――

後輩 いきますよ！

後輩、他四人に携帯を向けてシャッターを押す

「3、2、1、はいチーズ！」

暗転

エンディング

明転

ここは駅員室。

先輩と後輩がいる

駅員、何やら写真を見ている

駅員 写真、あの子が現像してくれたやつ、中々よく撮れてるな

後輩 あの子？ ああ、心姫（ハート）ちゃんですか

駅員 え？ あの子新姫（ハート）ちゃんって言うの？

後輩 何で先輩知らないんですか

駅員 いや、知らないよ。あの場で誰も自己紹介しなかったんだから

後輩 そう言えばそうですね。

駅員 不思議だよなあ

後輩 何がですか？

駅員 あの空間がだよ。誰も自己紹介も何もしてないのに、盗撮犯とその被害者なのに、最後はあんなに仲良くなれるなんて。

後輩 それ以外の要素が大きすぎたんですよ

駅員 そう言うもんか

後輩 はい

…あの先輩

駅員 ん？ どうした

後輩 生意気な口きいて、すいませんでした！

駅員 今謝るんだ

暗転

(終わり)